JAC北九だより

Ｎｏ.73（平成27年　第3号）

公益社団法人　日本山岳会 北九州支部

kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発 行:公益社団法人 日本山岳会北九州支部
支部長　伊藤 久次郎
事務局: 行橋市東泉3-18-10
竹本 正幸方
TEL-FAX 自宅　0930-28-9611
携帯　090-6739-9251
編集人:　事務局(森 義雄)
印 刷 : 山口県山口市水の上町2-25
内 藤 製 本 所

「山の日」　制定記念プレ山行

家族登山(風師山～矢筈山)を開催します

来年の8月11日から国民の祝日として、山の日ガ制定されることになりました。

北九州支部では、昨年8月11日に急きょ制定記念の親子登山を計画、市内の一般登山者や親子が参加されました。今年も昨年に引き続き、プレ山行として多くの一般登山者に参加を呼びかけ開催します。

登山コースは風師山から矢筈山で、ＪＲ線・バスなどの交通アクセスも良く、親子で気軽に登ることができます。

また、風師山岩峰（風頭）にはマナスル初登頂後訪れた日本山岳会元会長槇有恒記念碑と略歴碑が設置され、われわれ登山者にとっても貴重な史跡でもあります。

山を愛し自然の恩恵に感謝し、自然に親しむことが目的で多くの登山者によびかけ、山の日の記念事業としてこの親子登山を定着させていきたいと考えています。

一般向けの告知は、**7月7日の毎日新聞朝刊に掲載されました。**★写真は、昨年の家族登山の様子

写真　丹下会員の解説

写真　矢筈山へ登る

◆家族登山のお知らせ◆

と　き　　8月9日（日）雨天中止
集合場所　午前8時　JR小森江駅前
コース　　JR小森江駅8：00～小森江子供の森公園～風師山～矢筈山～小森江子供の森公園～JR小森江駅
14：30解散予定
参加者　　小学生以上
（ただし、中学生以下は保護者同伴のこと）
参加費　　100円（イベント保険料含む）
当日徴収します

携行品　　デイバック、昼食、飲み物、帽子、タオル、靴(登山用靴が望ましい）、長ズボン、長そでシャツ、保険証、常備薬(必要な場合)、雨具(カッパ)
申込み期限　8月3日(月)
申込み先　日本山岳会北九州支部
丹下洽(たんげ　こう)
携帯090-3732-8843
主催　　公益社団法人日本山岳会北九州支部
後援　　毎日新聞社

◆◆英彦山清掃登山◆◆　4月26日（日）

山岳１１団体が参加！

北九州支部長　伊藤　久次郎

写真　回収ゴミを前に

福岡県添田町の英彦山（1199㍍）で4月26日（日）、公益社団法人日本山岳会北九州支部主催で登山愛好家１１団体85人が空き缶やゴミを拾い集める清掃登山を行った。

参加者は、正面階段コース、南の鬼杉コース、北側の豊前坊コースの3コースに分かれ登頂。当日は絶好の登山日和に恵まれ、また添田町役場や県庁からも若い職員が多く参加したことから大量のゴミを回収、5時間余りかけて燃えないゴミ80袋、燃えるゴミ30袋分、合計110袋分、軽トラ2台分の量を回収。

また昨年5月、山頂にバイオトイレが出来たことで、県自然環境課の渡辺さんからは「皆さんからバイオトイレの維持管理などで協力をいただいている。今後も大切に使ってほしい」とあいさつがあった。

その他、参加した山のトイレ・環境を考える福岡協議会では、登山客らに「山のトイレマナー袋とパンフレット」100枚を配布し山のマナーを呼びかけた。

北九州支部では、10年前から清掃登山を続けているが、英彦山については今回で6回目。今回の参加団体は昨年より多く、他に地元の山岳団体や山のトイレを考える会、山頂のバイオトイレを建設したアイテックシステム（株）など多くの団体が参加したので、沢山のゴミを担ぎおろすことができた。

だが、古い歴史の山である英彦山は、いまだ埋もれたゴミが散在して、特に人が多く集まる山頂上宮周辺は沢山のゴミがあるので、これからも多くの人を動員して毎年清掃登山を続けて行く必要がある。

今回参加した団体は、

- 日本山岳会北九州支部（伊藤以下24人）
- 福岡県自然環境課（6人）、
- 添田町役場商工観光課（17人）、
- 筑豊山の会（3人）、
- 田川かたつむり山の会（7人）、
- 英彦山の環境・トイレを考える連絡協議会(3人）、
- 山のトイレ・環境を考える福岡協議会（5人）、
- 英彦山観光ボランティアガイド（1人）、
- 山頂バイオトイレ業者アイテックシステム(株)11人）、
- 筑歩会（龍頭、6人）、
- その他一般登山者（2人）

合計11団体　85人

支部会員の皆様ご協力ありがとうございました。

北九州支部参加者　24人
会員：伊藤久次郎(支部長）原広美、井上禮子、馬場基介、縄田正芳、竹本加代子、丹下洽、丹下香代子、森本信子、赤瀬榮吉、縄手修大神信生、森義雄、歳弘逸郎、塚本久嘉、町元里香、三浦利夫、大谷恵美子
支部友：井上薫、橋爪久吉、橋爪明代、清家幸三、藤井信義、藤井淳子

◆◆◆　清掃登山参加者の声　◆◆◆

ゴミの山は減らず！

15416　歳弘　逸郎

4月26日、良い天気でした。絶好の清掃日和です。

この日集まった人は会員24人と関係団体合わせて85人の参加者を得て、3コースに分かれての清掃活動でした。

私たちのグループ8人は鬼杉コースを行きました。

各人ビニール袋を持ちコースに落ちている空き缶ビニール片などごみ袋に入れながら、南岳と、さらにその先の中岳を目指します。約30分で鬼杉に到着、幹回り12㍍以上、高さ38㍍の巨木です。

圧倒される大きさに何か不思議な感覚を覚える。

日本各地にあるパワースポットは、やはりこう言う摩訶不思議な場所なのだろう。

さらに登り続けコースを少し外れたところに大きな岩をくり抜いて建てられた大南神社に着く。

お堂の下は急な斜面になっていて、ここから落ちればただではすまない。鎖場を2～3カ所通り南岳頂上へ到着。ここには大量のごみが捨てられていました。なぜ持ち帰らないのだろうか、集めているうちに段々と腹立たしくなってくる。各自がごみ袋を一杯にしてみんなが待つ中岳へと向かう。中岳でも清掃とゴミの分別をして、集まったゴミを小分けにして奉幣殿へと下山、清掃活動を終了しました。

写真　山頂での回収

時代の産物？

北九446　清家　幸三

清掃登山は今回で３回目の参加でした。

ゴミの多い山だと思っていましたがその謎が解けました。

原因は私たち団塊の世代の若いころと、それ以前の投げ捨てがあたり前のように行われ、あるいは地面に埋めた時代の産物だと思いました。

投げ捨てに関しては明治の小説に主人公が蒸気機関車の窓から弁当の空き箱を平気で放り投げていたくだりがあり、その時は可笑しい思いました。

または私の生まれは昭和23年ですが若いころにスコップで掘って埋めていた光景も思い出しました。

このような日常行われていた習性の産物に違いないと思いました。

時代の産物・・・しかも年代から推し量りゴミの後始末に参加するのは今の私たちが中心となってすることは至って自然なことではないかと思い、これからも参加しようと思いました。

今回の清掃登山に参加して昔の時代背景を思い出し、英彦山の大自然のふところで楽しく山行ができる山岳会を誇りに思いました。

写真　行政当局も大変です

月例山行　5月1日(金)　岳滅鬼山（がくめきさん）（1036㍍）
期待したシャクナゲは見られず　残念！

15709　山中　秀正

写真　山頂で

季節は初夏となり、5月度例会登山は、英彦山の南側にある「岳滅鬼山」。参加者は、ＣＬ榊、井上薫、山中の計３人です。

午前9時英彦山大権現駐車場に集合。

ＣＬ榊より本日のコースと注意点を確認：添田町役場商工観光係発行の登山マップを参加者全員に配布し「岳滅鬼山」コースを説明していただく。　現在位置、渡渉箇所、林道出会い、岳滅鬼峠、山頂のピストン。注意点として渡渉する箇所があるが、昨日の雨で水が増えているので、ストックを利用してバランスを崩さない渡渉をすること。岳滅鬼峠からはロープ場があるのでストックはしまうこと。

天気は晴れ、熱中症が心配になります。

午前9時10分出発、ＣＬ榊は、１週間ほど前に下見をして、この時期のシャクナゲの咲き具合（写真）を事前情報として把握されていました。残念なことに今年に関しては、花芽が全くなく時期をずらして来ても花は観賞できないとのことです。去年、実に多くのシャクナゲを見ただけに、表年、裏年的に咲く年があるそうです。しかし、果実のような１年ごとではなく数年に１回表年があるようなので、今年がだめで、来年がいいとは限らないとのことです。毎年の観察が必要です。

写真　シャクナゲ

午前9時18分渡渉、木橋は、橋桁が落ちており、橋脚のみが残置している状況です。ストックでバランスを崩さないように、下流側を渡渉します。ここで、濡れると本日の山行気分が沈んでしまいます。渡渉後、赤テープ、ケルンを目印に登っていきます。

足元に「カンアオイ」を教えてもらいました。葉っぱが「葵の御紋」模様の山野草です。

午前9時38分黒岩岳との分岐を通過、黒岩岳分岐の標識があります。

林道に出る前に、オフロードバイク３台の連れが、爆音を立てて通過していきました。

午前9時56分林道横断、ここで小休憩を取ります、岳滅鬼山登山口300㍍と深倉園地4.5㌔の標識を確認しました。林道横断箇所から南東方面に300㍍ほど行く。

午前10時9分岳滅鬼山登山口分岐を通過、ここにも標識があります。午前10時29分岳滅鬼峠にて、「従是北豊前国小倉領地」（写真）江戸時代の人が、ここを通り国境をこえていた光景に思いをよせます。

写真　国境石

ここから第１ピーク、第２ピーク、そして第３ピークへいきます。いよいよ、ロープ場が出てきます。榊リーダーより、ロープを確保するのは、１人のみが確保する。次の人は、前の人がロープから手を放したのを確認してから、ロープを手にしないといけない。もし、２人がロープを手にしていて、前の人が、何かの拍子でロープを振る場面に遭遇すると、後ろの人が、その反動に巻き込まれてしまい事故が発生するとのことです。

午前11時3分第３ピーク、小休憩、山頂と見間違いそう。それというのも、「岳滅鬼岳1037㍍」の表示があり、てっきり山頂と勘違いしてしまいます。

午前11時19分岳滅鬼山頂に到着し、昼食、記念撮影、アケボノツツジを観賞。

午前11時55分出発、ピークの下りでのロープ場です。ここは、慎重に、慎重に、ロープの握りと足場の確保です。朽ちかけたはしごが危険です。

午前12時38分　岳滅鬼峠

午後1時3分林道横断　この場所で、今から岳滅鬼山へ行く登山者１人に会いました。話を聞くとインターネットで、ルート情報を仕入れて北九州から来

て英彦山大権現に駐車して大南林道を通り、山へ向かうとのこと。一眼レフのカメラを持ち、出発後すぐに、山道を撮影するなど、写真撮影に余念がない登山者です。午後からの登山でしたので、撮影に時間を費やし、下山が遅れて道迷いしないでほしい、無事なことを念じます。

キツツキの木をたたく音「ドラミング」を聞きます。キツツキの鳴き声は、なかなか聞けません。キツツキは鳴き声でなく、クチバシで叩く音でメッセージを伝えるらしいです。木橋に着く前に、下山ルートの延長方向に、ケルンがあり、進行方向を見間違う沢がありました、かつてのルートだったかもしれませんが、ルートを見間違わないようにしないといけません。

午後1時34分木橋、渡渉

午後1時49分駐車場到着、解散

さて、この山の名前ですが『山名の由来ははっきりしないが、仏教の六道のうち、餓鬼道(物欲)をこの山の岩場で修行して取り去る。つまり餓鬼の心を滅する、ガキメキがガクメキへ転化したのではないかといわれている』（山と渓谷社の「福岡県の山」43番の記載を引用）とあります。

この岳滅鬼山から峰入り古道が続いており自分の修行のために続きを計画してみたい気持ちになりました。ＣＬ榊は、小石原まで、大日岳や釈迦岳を通過して行かれたことがあり、車を前後に手配したそうです。「登山は、修行じゃ」の場面が少しあります。

そして、山岳会の別の一面に「森林パトロール」を榊リーダーより教えていただきました。登山と並行して環境の見守り役をしている会員の方々の活動に興味を持った次第です。自分もその活動に参加したいものです。

参加者　　3人
会員：ＣＬ榊俊一、山中秀正
支部友：井上薫

月例山行　　5月10日(日)　　犬ケ岳（1130㍍）～経読岳（992㍍）
新緑輝く犬ケ岳から経読岳を歩く

15616　奥田　スマ子

写真　経読岳山頂

5月10日（日）２年振りの犬ケ岳山行は恐淵コースを登る。山は一面新緑でおおわれている。渓流の岩上にはヒメレンゲが咲き、その姿は可憐でみずみずしい。木も草花も初夏のエネルギーに満ちている。この時期はツクシシャクナゲの開花とも重なり一段と華やぐ季節でもある。この日、花を求めて訪れた登山者が多かった。

犬ケ岳、経読岳山域は自然豊かなところであるが岩場も多い。以前来たときにはなかった環境省の標識が設置されていた。真新しい標識には平成26年と記している。岩場には注意喚起の標示板もあり迂回路も判りやすくなっていた。昨年この山で起きた滑落死亡事故は私たちの記憶に新しい。それだけに慎重な行動が求められる。この日、登山者が互いに声をかけ、道を譲りあう場面が多く見受けられた。

「自分の命は自分で守る」山への感謝をわすれず、これからも安全第一で登山を楽しみたいと思う。

写真　かけ下りる

参加者　　8人
会員：ＣＬ森義雄、井上禮子、竹本正幸、
竹本加代子、森本信子、奥田スマ子、
山中秀正、
支部友：清家幸三

月例山行　第1回岩登り教室　5月17日(日)　平尾台
高度感を感じながら懸垂下降

15710　町元　里香

写真　鬼の唐手岩

昨日までの雨がうそのような晴天に恵まれた日曜日、茶ガ床に午前8時30分に集合し、点呼の後、唐手岩に出発した。20分程で唐手岩に到着。参加者のレベルに合わせ3班に分かれて練習を開始した。

まず最初に、ハーネスの装着方法、カラビナの種類、ロープの太さなどの岩登り用具とウェアの説明を受けた。次に、岩場で主に必要なクローブヒッチ、テープ結び、ダブルフィッシャーマンズノット、エイトノットなどのロープの結び方の練習をした。それから岩場での練習を開始した。

初級クラスの私は板倉リーダーの指導のもと、低い岩場で岩登りの基本技術である3点確保の訓練を行った。上体や腰を岩から離して安定した体勢で、手がかり足がかりになる岩の突起や割れ目をみきわめながら登るようにとアドバイスを受けたが、へっぴり腰になって、なかなか岩から体を離すことができない。指をかけるだけでは危険なため、手のひら全体で上から抑え込むように岩をつかみ、足を確実な岩の上にバランスよく置き小刻みに移動する。アドバイスをしてもらいながら何度か練習を重ねると、少しずつだがスムーズに移動できるようになった気がした。とても難しいが、ひとつずつコツをつかんで上達していく感覚が楽しかった。

午前中の練習が終わり、3班集合して昼食をとる。

空には色とりどりのパラグライダーが気持ちよく飛んでいた。

午後からは低い岩場で懸垂下降の練習をした。①安全を確保するために岩に打ち付けられたボルトと自分をつなぎセルフビレイをする。②エイト環にメインロープをセットする。（エイト環を落とさないように必ずカラビナにかけておく）③自分のメインのカラビナにエイト環（下降器）をセットする。④ロープが体重をきちんと保持し、支点が壊れないか体重をかけて確認する。⑤バックアップ設定。⑥セルフビレイを解除する。⑦下降を開始する。地上に降りたらゆっくり腰をおろし、ロープを緩めてから解除する。1回目は初めての経験のため体も腕もガチガチで足元も見ることができず、左にロープに振られてしまった。2回目は途中まで上手くできたが、油断してしまい右に振らついてしまった。慎重さ以上の技術はないと痛感した。3回目は失敗をしないように慎重に、足元もできるだけ見ながらゆっくりと下降したが、やはりバランスを崩し左右に体を振られてしまった。ロープに振られてバランスを崩さないためには広範囲に足元を見ながら必ず垂直に降りないといけない。はたして自分もできるようになれるのか不安だが、もっともっと練習を積み重ねていこうと思った。

最後にメインのカラビナにエイトノットでロープをつなぎ、上からロープを引いてもらいながらクライミングの練習をした。実際に登ってみて、バランスをとりながら移動することがすごく難しかった。手足の力はもちろんつけないといけないが、体幹を鍛えないとスムーズな重心移動はできないと思った。

今回初めて岩登り教室に参加して、いろいろなことを習得することができた。今後の課題もたくさんみつけられたような気がする。これからも積極的に経験を重ねて、一歩ずつレベルアップを目指していきたいと思う。

最後になりましたが、岩登りの基礎を丁寧に指導してくださった板倉先生、立ち止まるたびにアドバイスをしてくださった皆さん、本当に有難うございました。

写真　町元会員

参加者：15人
会員：ＣＬ竹本正幸、板倉健一、森本信子
竹本加代子、森義雄、歳弘逸郎、塚本久嘉、
奥田スマ子、大谷恵美子、山中秀正、
町元里香
支部友：清家幸三、俵富士夫、藤井信義、
藤井淳子

月例山行　5月31日(日)　英彦山山開き

北九465　伊藤　友紀

５月31日(日)天気が心配される中、午前8時に青年の家に到着。前夜祭からの参加組と合流し、午前8時35分青年の家を出発。霧のかかる中、野鳥観察コースを進んで行きました。

途中から階段が続き、風もなく蒸して汗がじわ～っとにじみ出てきて息も上がりきつかったですが、野鳥の透き通る綺麗なさえずりが聞こえ、まるで背中を押してくれているかのようでした。

青年の家を出て45分程して産霊(むすび)神社に到着。休憩をしていると、ほら貝の伸びやかな音色が聞こえてきました。話を伺いにいくと80代の男性の方で、実際にほら貝をもたせてくれました。想像よりも重く、目の前で吹いて頂いたときには足元から身体に音が響きわたり、疲れが少し取れた気がしました。

それから20分程で山頂に着き、11時より上宮拝殿で山頂祭の神事が行われました。祝辞祝詞、縄手さん含む各団体の代表者による玉串の奉天、登山者へのお祓いなど、登山安全祈願を行いました。

式典終了後、外にでてみると多くの登山者で賑わい、記念の手拭いが配られましたが、あっという間になくなっていました。

その後、昼食をとり午前12時25分に下山開始。

途中 、天気も回復し北西尾根を下って行きました。その途中、今まで見たことのない全体が白く透き通った植物を発見しました。それはギンリョウソウ(銀竜草)だと教えてもらい、色素を持たないので白いのだと知りました。

地面が濡れていたこともあり滑りやすく、スムーズに進めないこともありましたが、新緑より深みを増した緑の葉の間から差し込む光は、キラキラと輝き風も爽やかになり、とても気持ちよかったです。

青年の家付近まで降りてきたあと、岩と岩の間に狭い隙間のある針の耳へ行きました。早速、通り抜けできるか挑戦。入り口は片手をつき体を横に傾け、岩と土はひんやりし、途中からは立ち上がって進むことができ、無事に通り抜けできました。

そして午後1時50分、青年の家に到着。きつかった所もありましたがいい汗をかき、とても充実した山行になりました。まだまだ行った事のないコースもあるので、また挑戦したいと思います。

参加者：12人
会員：ＣＬ縄手修、榊俊一、竹本加代子、森本信子、歳弘逸郎、赤瀬榮吉、縄田正芳三浦利夫、町元里香
支部友：清家幸三、畑井教子、伊藤友紀

月例山行　6月14日(日)　両子山（ふたごさん）（720.8メートル）

六郷満山（ろくごうまんざん）の両子寺から両子山へ

14852　竹本　正幸

行　程
道の駅「おこしかけ」9:00～両子寺10:15／10:30～山頂12:00／12:50～両子寺14:20（解散）

6月14日(日)曇天で雨が心配される中、道の駅「おこしかけ」にビジターを含む12人が集合。

国東半島の最高峰でそのど真ん中に位置する両子山と両子寺の歴史散策が今回の目的である。登山の前に参道入り口まで下り、丹下さんの説明に聞き入る。石段両脇には2体の石造りの仁王像や苔むした石段には千年のときの流れが漂う。

入山するには、一人200円を納める。頂上へは三つのコースがあるが、我々は頂上に建てられたアンテナ工事のために作られたコンクリート道路を登って、帰りは七不思議の針の耳や鬼の背割りと言われる奇岩コースを下ることにした。

舗装されたコースとはいえ、急坂のカーブが続き、アキレス腱が伸びきってしまう。高度が上がるにつれ急坂はさらにきつくなり、うんざりするほど続く。

途中で立枯れの木にたくさんの純国産キクラゲを見つけた。だが高所にあり採取できない。何とかして採れないか、枯れ木を倒そうか。残念だが倒すこともできない。心残りだが諦めて、また急登を歩く。

やっと着いた頂上には大きな展望台があり、一等三角点もある。ガスがかかり展望は望めないが、時々雲の合間より国東半島の山々や周防灘が見える。

展望台の下で昼食を取り、下りはコンクリート道路の途中より山道に入る。二つに裂けた鬼の背割りは、岩壁の隙間が天まで続いているようだ。

写真　山頂で

針の耳は大岩の重なりに、人が四つん這いでやっとくぐれる穴が開いており、狭くて滑るため緊張する。一人ずつロープをもって慎重に下る。この付近は多くの観音像が祀られており百体観音と呼ばれている。

鎖をもって急坂を下り、舗装された小路に出て、大岩壁の下に建てられた子授け祈願の「奥の院」に着く。人生の先輩より「子授け祈願より先に祈願することがあるんじゃないの・・・」と温かいお言葉。

本殿の裏側の洞窟には清水が湧いていて不老長寿の冷水と言われている。奥の院から石段を下って両子寺境内に帰り着く。

参加者：12人
会員：ＣＬ丹下洽、ＳＬ竹本正幸、伊藤久次郎、原広美、井上禮子、丹下香代子、竹本加代子、今田智絵、町元里香、
支部友：伊藤友紀、藤原玲子、
ビジター：堤浩美

月例山行　6月28日(日)　古処山（860㍍）～屏山(927㍍)
発見だらけの古処山山頂

北九465　伊藤　友紀

午前9時3分キャンプ場駐車場を出発。登山口手前には鮮やかなオレンジ色が綺麗なヒメヒオウギズイセンが出迎えてくれました。

登山道の横を流れる川の水の音を聞きながら、3合目5合目7合目と進み、午前10時35分水舟に到着。

登山道は岩が多いなと感じました。水舟で休憩をとり進んで行くと、特別天然記念物のツゲのトンネルが現れ、またさらに進んで行くと木々の葉の隙間からこぼれる光のカーテンがあらわれる。太陽のパワーを浴びて元気をもらい午前11時30分屏山山頂に到着。風があり少し肌寒い中、昼食をとり古処山へ向かいます。その途中に大将隠しへ行きました。

苔の付いた岩と岩の間を下って行くと、両脇に立ちはだかる高い岩壁があり、その間に大きな岩がいくつか立ちふさがり身を隠せるのだと感じました。

そこから奥には行けませんでしたが、まだまだ下の方にも行けそうな感じでした。ハートの形をした岩も発見しつつ午後1時古処山山頂へ到着。

まずは見晴らし台へ。空は晴れ渡り景色を一望しました。次に高畠会員から磨崖仏へ案内してもらいました。岩と木々の間をかき分け降りて行くと、高さ5㍍ぐらいありそうな岩に不動明王の磨崖仏がありその迫力に驚きました。まわりの岩には苔が付いていましたが、磨崖仏には苔がついておらず、とても綺麗な状態でした。古処山は至る所に石仏があり、信仰の山なのだと感じます。磨崖仏を見たあと、下山を開始し午後2時35分、古処山登山口へ到着。

山に登るようになって、今まで見たことのない景色や歴史、自然に触れる事ができ、新しい発見の連続です。

とても充実した山行になりました。ありがとうございました。

参加者：14人
会員：ＣＬ赤瀬榮吉、井上禮子、榊俊一、大内喜代子、竹本正幸、竹本加代子、森本信子、縄手修、大谷恵美子、町元里香、奥田スマ子、森義雄
支部友：伊藤友紀
現地ガイド参加：会員：高畠拓生

関西支部設立80周年記念式典　5月30日～31日
六甲山は市民の山、されど～油断大敵
「イノシシの置き引きに遭う！！」

事務局　15387　森　義雄

写真　六甲山頂

【5月30日(土)】

日本山岳会関西支部は1935年(昭和10年)9月に設立され、今年で80周年を迎えるにあたり5月30日(土)記念式典が神戸市で開催されました。

開催地神戸市は、市民登山発祥の地であり、六甲山は藤木九三氏らが日本で初めて岩登りをはじめた近代アルピニズム発祥の地でもあること、また日本を代表する登山家加藤文太郎氏と植村直己氏の出生の地、但馬の玄関口でもあることから今回の記念式典の開催場所となったと紹介された。

当日は北九州支部からは関西支部との縁が深いことから伊藤支部長他12人の多くの会員が参加しました。

午前中にＪＲ新神戸駅に到着、昼食を済ませ、車と徒歩で会場の「六甲荘」に到着しました。会場には、歴史も長いことから関西支部関係者および他支部出席者約180人近くが参集しました。

記念式典は、主催の重廣関西支部長からあいさつがあり、続いて本部から森会長のあいさつ、来賓の祝辞がありました。

午後3時からフォーラムとして、①平林克敏会員から「孤高の登山家　植村直己を語る」の演題で講演があった。平林氏は自ら海外での輝かしい登山歴を有し、講演の中で植村直己氏の経歴、人柄、組織の中で能力を十分発揮できる人物像、その輝かしい業績の評価について詳しく語られた。次に、②朗読劇「山の声（大竹野正典原作）～ある登山家の追想」、単独行を好んで実践した加藤文太郎の手記をもとに二人の遭難を描いた二人芝居が演じられた。加藤文太郎は、新田次郎の小説「孤高の人」のモデルとしても広く知られている。

午後7時から祝賀会。関西支部の長期在籍者表彰があり、乾杯は日本山岳会斉藤元会長の発声ではじまった。途中、歌とトーク（リピート山中）があり、会場も全国から参集した会員の交歓の場となり、大いに盛り上がりました。

【5月31日(日)】快晴

記念山行は六甲山登山、3班にわかれ登ることになる。われわれ北九州支部は、Ａ班に参加。阪急芦屋川駅～高座の滝～ロックガーデン～六甲山の約4時間コースである。

早朝7時すぎバスでホテルを出発、芦屋川駅前の公園で8グループにわかれ8時20分に出発。周辺は大きな住宅・マンションが立ち並び、登る道路はかなりの傾斜がある。15分ほどで登山道に入り、その先は高座の滝。滝の横の登山道は、急登の岩場、花崗岩に囲まれた岩場を登る。ロックツガーデン中央稜を過ぎる、展望は時々遠く大阪湾を望む。50分ほどで風吹岩に到着。一休み。ここを過ぎると樹林帯の山道、ゆっくり登る。登山者も多い、家族連れや若者のグループが登る。

途中、休憩のため荷物をおろして休んでいると後方から黒い動物、伊藤支部長のザックを引っ張る。支部長も気が付き引っ張り戻し、奪還。イノシシである、逃げたかと思ったが、下方に移動し、休憩中の女性のチョコレートをひったくって逃亡した。直前、関西支部の重廣支部長から置き引き注意との言葉があったが、こんな近くまで寄ってくるのかと皆びっくり。登山者が多く、食べ物の残りなどが多いのか、恐れないようである。

昼食をとり、ちょうど午前12時すぎ、4時間ほどで山頂下道路に到着。山頂で記念写真を撮り、午後１時にバスに乗車し、有馬温泉で入浴。その後、午後４時過ぎに新神戸駅に到着しました。

六甲山は神戸の街からすぐそばにあり、市民の手軽な登山の場所となっていると感じました。

参加者：13人
会員：日向祥剛、原広美、伊藤久次郎、馬場基介、高畠拓生、関口興洋、内藤正美、丹下洽、大木康子、丹下香代子、大内喜代子、竹本正幸、森義雄

7月11日～12日
宮崎支部設立30周年記念式典および九州5支部集会参加報告

事務局　14852　竹本　正幸

【7月11日(土)】

神話の舞台高千穂に福島支部、千葉、東京多摩、東海、関西、京都滋賀、山陰、広島支部、九州各支部、ご当地関係者を含め、124人が集まり、記念式典が盛大に行われました。

集会の前に午後2時30分より天岩戸神楽保存会によるお神楽がご奉仕されました。

演目は1.「鈿女(うずめ)」（天岩戸前の舞、神楽の起源といわれている）2.「戸(と)取(とり)」（天岩戸を開き、天照大神に再び出て頂く）

次に「正調刈干切唄全国大会」で日本一になられた興梠則夫氏による「刈干切唄」、また工藤泰宏氏による相撲甚句高千穂神社浜下りが披露されました。

記念講演は高千穂神社宮司、後藤俊彦氏による「山と歴史と信仰と」の講話が行われました。

九州5支部集会は、本部より出席の吉川正幸副会長、高千穂町長、高千穂神社宮司ご臨席のもと、福岡支部を皮切りに北九州支部、熊本支部、東九州支部、宮崎支部の順番で各支部活動報告がありました。

休憩の後、午後6時30分より宮崎支部30周年記念式典が鏡割り「よいしょ」の掛け声とともに開宴となりました。

最初に披露された宮崎支部の神々の衣装をまとった男性コーラスは、3月頃から特訓練習されたそうで、成果が伺われ素晴らしいものでした。

北九州支部は炭坑節の踊りを披露、各支部の出し物が続き、最後に宮崎支部の「ひょっとこ踊り」のしぐさの滑稽さに盛り上がり、盛大の内に万歳三唱で閉演となりました。

【7月12日(日)】

12日は、天孫降臨の神山として伝えられる二上山登山の予定でしたが、荒天のため中止となり、全員観光コースに変更となりました。

3台のバスに分乗し、9時ホテルを出発。最初に高千穂峡の真名井の滝から岩戸神社へ、天安河原は増水のため立ち入り禁止。高千穂神社では昨日講演された宮司の後藤さまより神社の説明がされ興味深く聞き入る。

最後に国見ヶ丘に着くころには雨も上がり、高千穂の山々が澄み切った空気の中に神々しく鎮座していました。昼食は各自解散後にということで、ホテルに帰り解散となりました。

登山は中止になりましたが、全国から来られた方々と親交を温めることができ有意義な二日間でした。

いつか二上山に登りたいと思いつつ高千穂を後にしました。

参加者：14人

会員：伊藤久次郎、日向祥剛、溝部忠増、原広美、井上禮子、馬場基介、高畠拓生、関口興洋、丹下洽、丹下香代子、竹本正幸、竹本加代子、大谷恵美子、奥田スマ子

◇◇　支部・本部　行事のご案内◇◇

1　北九州支部　忘年の集い

とき：12月19日(土)
　　午後5時から7時まで（予定）

場所：「あじさいの湯」
　　（北九州市八幡東区河内）

記念山行：皿倉山登山口～皿倉山山頂
　～河内（あじさいの湯）

詳細：支部報10月号に掲載

2　本部行事

平成27年度創立110周年記念式典
と 年次晩餐会

・12月5日(土)　東京

・詳細は、後日本部から連絡などがあります

～新日本山岳誌校正余話～　鳳翩山（ほうべんざん）の山名変遷

11454　井上　佑

写真　東鳳翩山

『新日本山岳誌』に、鳳翩山を記したが、今回の校正でも枚数の余裕がなく、簡略に済ませていた。インターネットで日本山岳会北九州支部の案内や、『防長山野へのいざない』も少し違うので、正確なことを報告するべきと感じた。

山口市（旧吉敷郡）と萩市（旧阿武郡）と美翩郡の境界に在り、東西二山あり、東鳳翩山は734㍍、西鳳翩山は742㍍である。

享保(1730年頃)の『防長地下上申』中尾村の境目書には、東峰を「こしきか嶽」とある。「地下上申絵図」も「こしき山」とある。甑（こしき）は穀物を蒸す器具で、「こしき」は地名「吉敷（よしき」が訛ったといわれる。美禰郡綾木村では西峰を「方便山」と記し、「方便川」もあり、「真宗方便山万福寺」と山号にも使われた。

「鳳翩」は、想像上の目出度い霊鳥が羽を拡げ翻る（ひるがえる）さまで、山容を大げさに表したものだ。この「鳳翩山」と詩の中で詠んだのが吉敷毛利家の儒臣田中蘆城（ろじょう）で、蘆城は筑前太宰府の南方の蘆城駅（あしきうまや）で、音では「よしき」「吉敷」に通じる。自宅から「こしき山」を眺めて詠んだこの詩は現存しないが、延享5年（1748年）に朝鮮通信使制述官と赤間関での詩の唱和で末席に列し「怨ち鵬の背に乗じて通ず、奔騰して遠地に向ひ、翼を九別の外に奮ひ、翩々として来ること」と信使一行の来関を詠んでいる。遺品に「鳳翩」と題す書あり。

片山順蔵は吉敷毛利家の家臣の家に生まれ、幼より読書を好み、長じて、京に上り見聞ヲ広め、吉敷に帰り郷塾を開き生徒増し、吉敷毛利家儒臣、故田中蘆城の詩を読み遺風を慕い、清末毛利育英館学頭、萩毛利斎房の側儒を務める。則字は「順甫」で、先師の詩から採った「鳳翩」を号した。片山鳳翩が著名になり、『鳳翩集』12巻も出されている。

110年を経て、天保(1840年頃)の『防長風土注進案』中尾村には「方便山一二而鳳翩と書けり」と変化している。美禰郡綾木村では「方便山　大石村に在り、本郷より艮（こん）[東北]にあり」と変化はない。北側の阿武郡佐々並村」は「こしきか嶽」と「方便か嶽」のままと変化はない。

幕末は吉敷毛利の諸隊「良城隊」は広島と仙台で戦い、良城小学校も共に「りょうじょう」と読むが、心は「よしき」である

明治32年の陸軍の測量測図により、三等三角点名は、東は「東方便」で、西は「西方便」が点弥になる。二万分の一、五万分の一地形図に「東鳳翩山」「西鳳翩山」と山名が記された。いずれも「ほうべん」と読む。

小中高の校歌に10校が「鳳翩山」を入れ、明治6年創立の大殿小学校のみが「山ならほうべん我等恵まる」と歌う。明治の初めから、山口には英独から教師が招聘され、休日には東方便山に登り、生徒もついて登った。近代登山の山として、山口県では最も歴史がある。

ついでに、下関の竜王山は、海図第201号に、西峰（竜王神社上宮）を「吉見竜王山」、一等三角点の本峰を「鋤崎山」と記し、海軍の方が正確であった。

岩登り同好会発足しました
～会員募集中～

経験は問いません！
岩登りをはじめたい方大歓迎！
詳細は別途
申込み：坂井義臣（携帯090-1925-4054）

版画同好会
～版画教室開催～

※参加者募集中
講師：伊藤久次郎
ルームにて月2回～3回実施
申込み：伊藤久次郎（携帯090-8837-2696）

宮城支部の千葉氏　槇有恒記念碑・略歴碑見学

14264　丹下　洽

写真　風師山風頭

5月24日（日）日本山岳会宮城支部の千葉正道会員が風師山（風頭）の「槇有恒記念碑・略歴碑」を訪ねて来られた。

来訪のきっかけは、千葉氏が当支部報掲載の略歴碑設置1周年記念（H27年5月発行）の記事を見られ、ぜひ訪れたいと当支部へご連絡をいただいた。千葉氏が今回下関市で開催された医学学会出席の合間での来訪となった。

午前11時、門司港駅で千葉氏をお迎えし、徒歩で清滝公園より企救自然歩道から登る。途中、三角山の門司合戦、高浜虚子の句碑、もじみ谷、車道終点の古代人住居跡などご案内する。風頭の肩にある、トイレ、かんざし小屋を案内し、風頭山頂に到着。

槇有恒氏の記念碑、略歴碑、およびその経緯を記した当時の毎日新聞のコピーや支部報、号外などの資料で説明する。

当日は好天に恵まれ、北九州市、関門海峡、森武昭前会長生誕の地や近くの春帆楼、赤間神宮も良く見える。森前会長が北九州支部の会友である理由もご納得いただけたようである。

千葉氏も時間の余裕があるので、北九州支部ルームへご案内する。

ルームで、北九州支部の現状やルームの運営などについて質問をいただく。また、当支部の日常活動、支部報の年4回発行、ルームの開設などについておほめの言葉をいただき、恐縮するとともに今後の励みになった。

小倉駅にお送りし、再会を約束しお別れとなった。

良い出会い、楽しい1日でした。

宮城支部では槇有恒氏の顕彰碑設置を模索しているようで完成の際は、ぜひ訪れたいと思っています。

※千葉正道(会員番号12948)氏の紹介
日本山岳会宮城支部所属、医師、
日本登山医学会　所属

日本山岳会北九州支部創立15周年
記念山行の事前訓練頑張っています！

支部では、７月末実施の記念山行（後立山連峰縦走コース：白馬岳から針ノ木岳））として、
Ａ班（武永リーダー他6人）、
Ｂ班（赤瀬リーダー他4人）、
Ｃ班（竹本リーダー５人）の参加者も決まり、
事前の訓練を６月から、それぞれ実施しています。

A班のコースが一部変更になりましたが、参加者全員安全登山を目指して、訓練を続けています。

次回支部報で、記念山行の報告をさせていただきます。

写真は事前訓練の様子

写真　A班竜王山

写真　Ｂ班竜王山

◆公益活動◆
幸幼稚園風師山ハイキングサポート

14264　丹下　洽

昨年に引き続き、今年も幸幼稚園から風師山ハイキングのサポートの要請があった。今年は、５月19日(火)は「かめコース」、21日(木)は「うさぎコース」でハイキングがあった。

当日は天候にも恵まれ、19日は園児36人、保護者31人、先生6人、サポート部隊として北九州支部から丹下リーダー以下4人が参加、21日は園児33人、保護者26人、先生5人、北九州支部5人が参加した。保護者が自分の子供とともに岩峰(風頭)、風師山に登り、関門海峡を望みながら昼食をとった。

忙しい中、ご協力いただいた会員各位にお礼を申し上げます。

第1期（平成26年度）北九州支部指導員認定書交付

事務局

平成26年度に開催された第1期北九州支部指導員養成講座が終了し、認定書授与が第16回通常総会（H27.4.19開催）で支部長から授与されました。

第2期養成講座は平成27年7月から開始されます。

授与された会員は下記会員の7人の方です。

B級　竹本正幸、竹本加代子、縄手修

C級　森義雄、三浦利夫、塚本久嘉、町元里香、山中秀正

写真　風師山山頂

写真　授与式

平成27年度山岳専科の開催（講師　園川顧問）

今年度も園川顧問（日本体育協会公認山岳上級コーチ、山岳マスター指導員）による山岳専科が開催されています。

第1回は6月7日(日)、①山岳事故救助と②登山用具の有効活用の応用について。

当日、会員及びビジター11人の出席があり、園川講師から山岳事故対策の基本や登山活動中に発生した山岳事故に対し具体的処置とリハーサルの実施などの講義があった。また、登山用具の応用例でロープの基本活用、ザックなどの用具での応急時活用方法をご指導いただいた。

第2回は7月5日(日)，①登山の主催者とリーダー責任、②登山で使われる筋肉、③登山の健康管理と注意、④傾斜線の読みと計算の仕方他の講義があった。会員15人およびビジター2人の出席があり、園川講師より、皿倉山への登山中、心泊数とマイペースの計算式との関係や運動とカロリーとの関係などわかりやすい解説があった。

次回第3回目は今年度最後で9月6日(日)に開催されます。多くの会員の受講をお待ちしています。

写真　ザックの活用

◇◇月例山行のご案内◇◇

支部会員、支部友会員による県外山行（北九州支部エリア外）は「登山計画書」を必ず事務局に提出しましょう。

変更点

★平成27年度月例山行の一部変更
（11月までの山行）
※（5月支部報に掲載分の変更）

①山の日プレ山行　8月11日（火）
　期日　⇒　8月9日（日）
②右田ヶ岳～西目山　9月13日（日）
　期日　⇒　9月12日（土）
③宮崎ウェストン祭　11月3日(火)
　期日　⇒　11月2日（月）～3日（祝）

★7月以降の月例山行については、担当リーダーが1人から2人となりました

平成27年8月の山行

●由布岳(1583㍍）お鉢めぐり
【クラス：中級】

リーダー：竹本加代子、大内喜代子
と　き：8月30日(日)
集　合：7時30分
　豊前道の駅「おこしかけ」駐車場
　9時15分　現地（正面登山口駐車場）
行　程：正面登山口～マタエ～西峰～東峰～マタエ～正面登山口　（往復約6時間）
申込み：竹本加代子（TEL0930-28-9611、携帯090-9253-1260）
締切り：8月23日

平成27年9月の山行

●第3回　山岳専科（皿倉山）

講　師：園川陽造顧問
テーマ：地図の見方とコンパスの使い方
と　き：9月6日(日)
集　合：9時　帆柱駐車場
行　程：駐車場～皿倉山山頂～駐車場（15時）
装　備：一般装備
申込み：縄手修（携帯090-2854-3149）
締切り：8月30日(日)

●右田ケ岳(426㍍)～西目山(312㍍)
【クラス：中級】

リーダー：歳弘逸郎、大内喜代子
と　き：9月12日(土)
集　合：9時　天徳寺近くの専用駐車場
　（防府市右田小学校近く）
行　程：駐車場～右田ケ岳片山登山口（新コース）～右田ケ岳山頂～岩尾根コース下山～西目山勝坂登山口～西目山山頂～大日コース登山口へ下山～駐車場
　（往復約3時間40分）
申込み：歳弘逸郎（携帯090-4806-2878）
　大内喜代子（携帯090-4695-5842）
締切り：9月5日（土）

●叶岳(341m)～高祖山(416m)
【クラス：初級】

リーダー：三浦利夫、榊俊一
と　き：9月13日(日)
集　合：9時00分　今宿野外活動センター駐車場
　（今宿活動センターTEL:092-806-3114）
　福岡都市高速道路～福岡前原道路（今宿ＩＣ下車）
行　程：今宿野外活動センター駐車場～叶岳登山口～叶岳～高地山～高祖山～今宿野外活動センター駐車場（縦走約4時間）
申込み：三浦利夫（携帯：090-2850-6020）
締切り：9月5日（土）

●第3回岩登り（平尾台）

と　き：9月27日(日)
集　合：8時30分　平尾台茶ガ床園地
場　所：平尾台唐手岩
行　程：茶ガ床～唐手岩(岩登りトレーニング)～茶ガ床(15:00)
申込み：板倉健一（携帯090-7163-1610）
締切り：9月19日(土)

平成27年10月の山行

●広島支部との交流会
**　　および記念山行　由布岳(1583㍍)**

リーダー：内藤正美、森義雄
と　き：10月10日(土)～11日(日)
集　合：午後1時　九重グリーンパーク泉水キャンプ村（TEL0973-79-3620）
行　程：(予定)
　10日(土) 午後5時　交流会
　　宿泊：テント泊
　11日(日) 午前5時　起床
　　午前7時　キャンプ場出発
　　午前8時30分登山開始
登山コース：
　由布岳正面登山口～西峰～東峰～正面登山口
　約5時間（昼食時間含む）午後3時解散予定
申込み：森義雄（携帯090-4475-7799）
締切　：9月27日(日)
※参加者決定し、後日打ち合わせをします
その他：原則10日の交流会参加および宿泊としますが、11日登山のみの参加可能。
　（当日のみ参加者は正面登山口集合）

●第4回岩登り（陶ケ岳）

と　き：10月25日(日)
集　合：9時　松永邸横駐車場
場　所：山口県陶ケ岳
行　程：松永邸横駐車場～陶ケ岳岩場(岩登りトレーニング)～駐車場(午後3時解散)
申込み：竹本正幸（携帯090-6739-9251）
締切り：10月17日(土)

平成27年11月の山行

●第31回宮崎ウエストン祭（宿泊）

と　き：11月2日(月)～3日(祝)
会　場：高千穂町五ケ所高原「三秀台」
概要　2日　式典及び地元関係者による交流会
　　他支部との交流会もあり
　　宿泊は現地公民館予定
　　3日　記念山行「親父山」（1644㍍）
その他　詳細は次回支部報でお知らせします
申込み　森義雄(携帯090-4475-7799)
　　竹本正幸(携帯090-6739-9251)
締切　10月15日(木)

◇◇個人山行のご案内◇◇

野の花を愛で、史蹟を巡り、
のんびり山歩きを楽しみませんか

担当：丹下洽

＝時期および山行箇所＝
●8月～11月

・8月20日(木)　万年山（初秋の野の花）

・9月17日(木)　平尾台（草原の野の花）

・10月22日(木)　上仏来山
　（大友氏と戦った英彦山方の本陣跡）

・11月27日(金)　風師山
　（門司合戦三角山城跡と風師山紅葉谷）

◆集合時間やルート等の詳細については、直接丹下会員へお問い合わせください
申し込み先　　丹下洽（たんげこう）
　　TEL093-391-8193
　　携帯090-3732-8843

事務局からのお知らせ

1、緊急連絡先登録票の未提出の方
　登録票を提出をされていない方は、森までお送りください！

2、支部からの山行等のお知らせ
　6月以降、月例山行等のお知らせを会員の皆様にパソコンメールにて送信しています。
　(一部の方は携帯メール)
　今後、メールにてお知らせをご希望の方は事務局森までメールアドレスを記載のうえご連絡ください。※パソコンでの送信も可。

事務局　森のパソコンメールアドレスは、
tokuyoshimori@jcom.home.ne.jp

お知らせコーナー

森林保全巡視員委嘱の更新および募集について

森林保全巡視員とは、登山を楽しむとともに、森林保全のため九州各地の山々に入り活動を行うことが役割です。現在、当支部も20数人の方が九州森林管理局から委嘱（2年更新）を受けて活動しています。

つきましては、現在25年11月から委嘱を受けている会員については更新の有無をお知らせください。

また、新たに巡視員を希望される支部の会員（支部友も含む）は下記の内容をご確認のうえ申込みください。

記

1　委嘱期間
平成27年11月1日～平成29年10月末日まで

2　委嘱の条件
・北九州支部の通常会員および支部友会員
・巡視員は、無報酬です。
・半年に1回九州山域での活動記録の提出があります。
・委嘱された場合は、委嘱証明書を持参し、腕章をつけて入山してください。

3、提出書類（新規の方）
・承諾書、顔写真1枚

4　新規申し込み先　磯野文雄(TEL092-962-1537)

5　その他
・詳細については、磯野文雄にお問い合わせください。
・新規の希望者への説明会を、8月2日（日）に支部ルームにて行います。
・現巡視員と新規巡視員予定者を対象に9月13日（日）立花山で植物観察会を開催します。

◆植物観察会のお知らせ
・とき　9月13日（日）午前10時～午後3時
・集合場所　午前10時西鉄バス「下原」バス停(ＪＲ九産大前駅から徒歩15分)
・観察行程：下原バス停～立花山～下原バス停(糟屋郡新宮町・福岡市東区)
・その他①雨天中止、②申込みは磯野(携帯090-4989-5961：連絡は午後5時以降)、③筆記道具やカメラ持参があると記録できます

会　務　報　告

●平成27年5月定例役員会報告

・日　時：平成27年5月13日(水)18:00～20:15
・場　所：当支部ルーム(毎日会館１F)
・出席者：伊藤久次郎、板倉健一、竹本正幸、磯野文雄、丹下洽、武永計介、大木康子、大内喜代子、池田智彦、縄田正芳、縄手修、森義雄、馬場基介、木原充
欠　席：日向祥剛

・議題
（１)会員の異動状況
①通常会員：75人（＋2）
支部友から山中秀正・町元里香通常会員へ
②支部友：49人（－4）
③会友：4人　　計：128人（－2）

（２)会費納付状況
支部友：25人未納(H27年度分)

（３)山行・行事報告
・3月21日～22日皿倉山～福智山～採銅所（縄手報告）：11人参加
・4月5日花尾山（大内報告）:雨天のため中止
・4月11日～13日全国支部懇談会（四国支部）（森報告）6人参加(内5人は記念山行に参加)
・4月19日槇有恒略歴碑の1周年セレモニー（風師山）（丹下報告）28人参加
・4月19日第16回通常総会(小倉ステーションホテル）49人出席（懇親会45人参加)
・4月26日英彦山清掃登山（森報告）北九州支部から24人一般も含めると85人参加
・5月1日岳滅鬼山（森報告）3人参加
・5月10日(日)犬ケ岳～経読岳（森報告）8人参加

（４)山行・行事計画
・5月19日(火)幸幼稚園児サポート（年少組）
・5月21日(木)　同上　（年長組）
・5月17日(日)第1回岩登り教室（平尾台）（15人参加)
・5月30日(土)～31日(日)関西支部80周年記念式典(13人参加)
・6月7日(日)第1回山岳専科（皿倉山）
・6月14日(日)両子山（大分県）

・6月20日(日)第2回岩登り教室（陶ヶ岳）
・6月28日(日)古処山～屏山
・7月5日(日)第2回山岳専科(皿倉山)
・7月12日(日)城山～金山
・6月27日(土)～28日(日)
白神山地ブナ林再生＆自然観察会（6/18）
・7月11日(土)～12日(日)　宮崎支部設立30周年記念式典および5支部集会（10人参加予定）
・７月11日～12日　2015年度自然保護全国集会（青梅市）

（５)役員の業務分担・組織図の検討
次回役員会で決定

（６)指導員養成講座について
現在申し込み　藤井(2)、奥田、歳弘、

（７)定例山行時の車代計算方法の統一
35円／ｋｍを同乗者で分割(運転者含む)

（８)定例山行参加費（500円）の具体化
→公益事業は徴収しない

（９)ホームページの開設
（ペンディング事項：次回以降検討）

(10) 森林保全巡視委員の活動
磯野代表より報告用紙と次回継続、退会申込用紙を配布（現在24人）

(11)新入会員のフォローについて
入会時にオリエンテーションを実施（会の規約、年間計画等の説明）月例山行に参加

(12)山の日制定記念バッチ・安全登山ハンドブックについて(本部より)
ハンドブックの活用はイベントの時に必要数を請求すれば郵送される

(13)ルーム当番について
近くの方は極力当番の参加お願いします。

※次回役員会は、7月1日(水)の予定

以　上

文責：事務局　竹本　正幸

●平成27年７月定例役員会報告

日　時：平成27年7月1日(水)18:00～20:00
場　所：当支部ルーム(毎日会館 1F)
参加者：伊藤久次郎、日向祥剛、竹本正幸、磯野文雄、丹下洽、大木康子
大内喜代子、池田智彦、縄田正芳、縄手修、森義雄、馬場基介、木原充
欠　席：板倉健一、武永計介

議題

【報告事項】

（１)会員の異動状況
通常会員：72人　支部友：48人　会友：4人
計：124人
〇退会
・通常会員：
大石そなえ(14199)、藤木良憲(11389)
・支部友
久原公枝(北九459)

（２)会費納付状況　支部友：12人未納

（３)山行・行事報告
・5月17日(日)岩登り教室（平尾台）15人参加
・5月19日(火)幸幼稚園児サポート（年少組）5人参加
・5月21日(木)同　上　　（年長組）5人参加
・5月30日(土)～31日(日)関西支部80周年記念式典12人参加
・6月7日(日)山岳専科（皿倉山）11人
・6月14日(日)両子山（大分県）12人
・6月20日(土)陶ケ岳岩登り　雨のため中止
・6月20日(土)トイレ協議会総会（太宰府市）3人参加
・6月22日(月)山行委員会（支部ルーム)16人
・6月28日(日)古処山～屏山15人

（４)山行・行事計画
・7月5日(日)山岳専科(皿倉山) 14人
・7月11日(土)～12日(日)宮崎支部設立30周年記念式典および5支部集会13人参加
・７月11日～12日2015年度自然保護全国集会（青梅市）欠席
・7月12日(日)城山～金山（リーダー赤瀬）
・7月20日(祝)指導員検定試験（皿倉山）
世話人：山中秀正
・7月23日(木)～27日(月)15周年記念山行
Cコース五竜岳～針の木岳5人参加予定
・7月30日(木)～8月2日(日)15周年記念山行
Ａコース白馬岳～朝日岳7人参加予定
・7月31日(金)～8月3日(月) 15周年記念山行
Bコース白馬岳～五竜岳5人参加予定
・8月9日(日)山の日制定記念プレ山行
小森江公園～風師山～矢筈山
（担当：丹下、池田、山中）
・8月30日(日)由布岳（リーダー竹本加代子）

（５）緊急連絡先登録票提出（7/1現在）
会員：40人　支部友：19人　計59人

【審議事項】

（１)山の日制定プレ山行について
・担当は、丹下・池田・山中。本日（7/1）、今年のプレ山行については毎日新聞西部本社から後援をとりつけた。「山の日制定記念家族登山」準備委員会で担当を決めて次年度以降も継続して運営を行う。
・７月中旬に担当体制などを決めていく。

（２)役員の業務分担・組織図（懸案事項）
・提案の内容を承認

（３)山行委員会の報告（6月22日実施）
別紙で縄手委員長が説明
・月例山行の運営はリーダーおよびサブリーダーの2人体制、山行委員を14人とした。
経験の浅い委員の育成も併せて行う。
・山の日のイベントは、来年は県下山岳会での共同開催となるかもしれない。
・15周年記念事業計画は今年から来年度にかけて行う。
（後立山縦走登山、英彦山秋の峰入り、版画、写真、絵画等の文化祭）

（４)月例山行500円の参加費の振込先とリーダー手当の新設（森案説明）
・参加費の徴収は、総会で承認されたので今年度1年間は徴収する。
・徴収金の中でリーダー手当として下見での交通費や資料作成費用を考慮し支給、リーダーが残金を役員へ引き継ぐ。役員は支部へ納金する。
①片道50ｋｍ未満は1,500円（資料作成費用含む）
②片道50ｋｍ以上は3,000円
③月例山行が中止の場合は、リーダー手当を支給しない。

（５)登山計画書のフォーマット統一と留守本部の取り扱い
・6/28の月例山行のフォーマットを基本として今後取り扱う。
・留守本部の取り扱いは、2人のうち1人に連絡し、実施する。

（６)森林保全巡視員の活動
（進捗状況および審議事項：磯野案説明）
・今年度更新の巡視員と退会者の届出が来ています。今後は、支部報で公募する。
（７/１現在の巡視員：19人）
・腕章などの返却の取り扱い、活動費の負担について説明があり、承認された。

（７)本部会費の預金口座振替に関して
・本部から会員費用の口座振替用紙の配布あり。

（８）安全登山ハンドブックの活用
・100冊届いています。
有効活用して下さい（ルーム保管）

（９)英彦山峰入り山行の計画
・担当は丹下・山田・塚本、
・実施時期は秋が望ましい
丹下役員が日本山岳修験学会長野顧問に会い、ルート等の確認、検討をする。

（１０)三役会議の実施検討
（支部長、副支部長、事務局）
・今後実施する

（１１)新入会員のフォローについて
・山行委員会で検討する

（１２)宮崎ウエストン祭の日程確認
11月2日(月)～3日(祝)

（１３)同好会の設立について
（岩登り同好会、ビスタリークラブ、花散策同好会等の案あり）
・設立、運営方法を検討する

（１４)会員カードの発行について
・準備ができ次第発行予定

【お知らせ事項】

①広島支部との交流登山10/10（土）～11（日）
・開催時期および場所の検討
（九重グリーンパーク泉水キャンプ村
宿泊はテント）

②忘年の集い12/19(土)
・八幡東区あじさいの湯
・運営委員は大木・池田、山行関係は縄手、準備などは事務局がサポート

③月例山行は前月15日までに計画をメールで知らせる

※　次回役員会は、9月2日(水)の予定

以　上

文責：事務局　竹本　正幸

◆支部ルームのご案内◆

●利用方法

現在、ルームは定例の役員会開催や版画教室などで使用していますが、会員ならどなたでもご利用できます。

個人山行の打ち合わせ、図書の閲覧などにもご利用ください。

他支部の支部報も展示していますので全国の最新情報が入手できます。

●入室方法

使用を希望する場合は、出来る限り事前に事務局へご連絡して使用してください。ルームには平日（土日祝日を除く)当番者がいる場合がありますので、ご連絡後、入室してください。

入室する場合で、当番者がいない時間帯及び曜日の場合は警備室からルームキーを受け取り入室することできます。

連絡先：竹本　正幸（携帯090-6739-9251）
　　丹下　洽（携帯090-3732-8843）

ルーム日記（5月～7月中旬）

○5月
13日定例役員会（午後6時～9時）
15日備品の確認作業（無線機、ＧＰＳ、支部旗など）（森）
18日記念山行打ち合わせ（伊藤支部長および各班リーダー）参加者および行程等の確認
19日および21日幸幼稚園遠足サポート
　新聞記事原稿作成（丹下会員）
　※5/25毎日新聞 朝刊 に掲載される
24日仙台支部千葉正道会員がルームに来室
　（丹下会員が風師山を案内）

○6月
22日山行委員会開催（14人参加:今年度の山行計画の変更などを打合わせ

○7月
01日　定例役員会　（11人出席）
15日　支部報編集委員会（4人出席）

小倉サロンは毎月第４週の水曜日に開催しています

場　所：小倉北区魚町「コール天」
申込み：事務局森義雄　(携帯090-4475-7799)

小倉 サロン

1. 7月22日(水) 午後6時から

2. 8月26日(水) 午後6時から
記録ビデオ上映　園川シリーズ第1回前編
「遭難対策講習会」（山岳技術専科）
テーマ：登山者の生理と止血法や水分補給他
20081年2月17日皿倉山にて
講師：園川顧問
スタッフ:大楠益弘、磯野文雄
出演：原、丹下洽、丹下香、大木、森本
　　ほか13人
撮影：伊藤久次郎

3. 9月23日(水) 午後6時から
記録ビデオ上映　園川シリーズ第1回後編
テーマ：基本的なロープワークとロープでの担架やハーネスの作り方

4. 10月28日(水) 午後6時から
ロープワークの指導他（竹本講師）

博多 サロン

1．8月6日(木)　午後6時30分より
・場所:中央区天神2-6-42　平和楼3階
旬魚旬菜「てんじん」
・申込み：赤瀬榮吉　(携帯090-7475-9748)
携帯電話かショートメールで
※今回より博多サロンは会場が変更となっています。

会員の皆さん保険に入りましょう！

これから、本格的な登山のシーズンです。
登る前には必ず保険に加入し、登山届を提出しましょう！
まだ保険に未加入の方は、事務局までお尋ねください。担当：森義雄(携帯090-4475-7799)

○日本山岳会団体登山保険
（団体総合生活保険）
対象者：日本山岳会通常会員のみ
契約者：日本山岳会
引受保険会社：株式会社東海日動パートナーズ
TOKIO東東京支店
保険のお問い合わせ
月～金　9：00～17：00
TEL：03-5637-1611

○山岳共済会の山岳遭難・捜索保険
対象者：別に制限はありません
契約者：日本山岳協会山岳共済会
引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社
日本山岳協会山岳共済事務センター
・保険のお問い合わせ
月～金　10：00～17：00
TEL：03-5958-3396
FAX：03-5958-3397

○スポーツ保険の紹介
加入手続きを行った５人以上のアマチュアの社会教育関係団体の構成員を被保険者として加入できる保険です。保険には、①傷害保険、②賠償責任保険、③突然死葬祭費用保険を一括契約した補償制度です。
当支部の会員の皆さんでは、①大人でスポーツ活動、スポーツ活動の指導・審判の団体活動が適用されます。（加入区分C:1,850円）また、65歳以上の方は加入区分で1,000円となります。適用される範囲として、ウォーキング、ハイキング、軽登山、釣り、キャンプなどが含まれます。
ただし、山岳登はん、冬山登山、岩登りなど危険度が高いものは適用外です。
他には、捜索費用がついた保険、補償金額が高いものなど危険度に応じて色々な種類があります

◆編集後記◆

夏の登山シーズンに入りました。会員の皆さんも地図を見ながら山行の準備を進めているかと思います。登るからには準備はできていますか？
6月末埼玉県の雲取山に登りました。頂上の山荘で一泊しましたが、夕方3人連れの家族連れが到着。娘さんがくたびれたと入口で靴を脱いでいました。よくみると、靴にガムテープがぐるぐる巻き。本人いわく、久しぶり履いたそうで家を出る前に靴の状態を確認しなかったとか。
登山の前には必ず、靴の状態を確認することが大切です。靴底が大丈夫か、劣化がないかよく調べて履くようにしたいものです。ケガをしないためにも道具を大切し、安全登山に心がけたいものです。

破れたら大変！

事務局
森　義雄

居酒屋「コール天」

●小倉北区魚町1-2-23 桧山ビル2F
●TEL：093-522-0565
●ＪＲ鹿児島本線 小倉駅南口から
中央銀天街方面に向かい徒歩5分

北九州支部は毎月（第4週水曜日）のサロンでお世話になっています